

# 北京電影学院“实验电影”学院賞の発足と授賞式のご報告

## 第1 北京電影学院“实验电影”学院賞の発足（人の縁の積み重ね）（2007年～2014年）

- 1) 坂和による北京電影学院での集中講義『坂和的中国電影論』（2007年10月10日）
  - ・日本側は古澤敏文氏（事務所だより第9号で紹介）、中国側は美術学部の王鴻海教授と劉旭光教授の世話によるもの。
  - ・日本留学の経験もある劉教授は日本語もペラペラ。後述の劉茜懿さんや、日本人留学生の安藤直子さんを含めた約60名の受講生の熱気はすばらしいものだった。
- 2) それから7年。北京電影学院を卒業し、早稲田大学に留学中だった劉教授の娘である劉茜懿さんからの連絡により、2014年7月30日、劉教授、刘晓清教授、霍廷霄教授（張芸謀監督の映画で美術デザインを担当）たちが、私の事務所と自宅を訪問。
  - ・机の上に並ぶ、『シネマルーム』1～32を中心とした書籍を話題に、事務所での公式対談は有意義なものになった。続く、会場を自宅マンションに移しての夕食会では、中国映画の話しが盛りあがる中で、大いに飲みかつ食べながら、3人の教授たちが北京電影学院聯合作業卒業制作プロジェクト坂和章平賞の設置を提案。坂和を主席スポンサーとして、同賞を発足させる話し合いがされた。



自宅マンションで（2014年7月30日）



事務所4Fの大会議室で（2014年7月30日）

- 3) 北京電影学院内での協議が進み、坂和と北京電影学院との間で北京電影学院学生総合映画製作作業新視覚賞に関する協定書を締結（2014年11月）。その内容は次のとおり。

- 1) 坂和は北京電影学院の青年映画芸術を発展させることを目的として、「独自の創作を奨励し、かつ、当該創作に係る著作権その他の権利を保護し、海賊版の跳梁を許さない」活動の首席スポンサーに就任（3年間）。
- 2) 坂和は首席スポンサーとして、年間100万円を寄付し、イベント等に参加する。
- 3) 北京電影学院は、学生の映画製作を奨励する「新視覚賞」を創設し、毎年10月以降、3、4年生と院生が製作する映画から受賞者を決定する。
- 4) 坂和は毎年5月頃に開催する、新視覚賞授与式に参加し、その年度の寄付金100万円全額を賞金として授与し、坂和章平の称号を記載した表彰状を授与する。

- 4) 北京電影学院“实验电影”学院賞の決定と、（予定をやりくりしての）主席スポンサーとしての授賞式への参加決定（2015年6月）

## 第2 北京電影学院への2泊3日の旅（2015年6月28～30日）

### <1日目（6月28日）>

1. 劉茜懿の車で北京電影学院へ、北京電影学院“实验电影”学院賞获奖影片放映暨頒獎典禮を告知する巨大な立て看板にビックリ。（写真1）
2. 評審委員会主席・坂和章平を歓迎する夕食会に出席。（写真2）  
（モンゴル料理の北京蒙古往事特色餐厅にて）

### <2日目（6月29日）>

- 1) 音響棟、アニメ棟、俳優棟を見学
- 2) 18時半から、北京電影学院“实验电影”学院賞获奖影片放映暨頒獎典禮開始（写真3）
- 3) 組委會主席・王鴻海副学院長から坂和の紹介
  - ①評審委員会主席の特頒此証の授与
  - ②王鴻海副学院長の自筆の書の授与
- 4) 評審委員会主席坂和の講話（スピーチ  
内容は下記のとおり）（写真4）
- 5) “实验电影”学院賞大奖授賞者に、王鴻海と坂和から賞状と1万円の授与（写真5）
- 6) 授賞式参加者全員の集合写真（写真6）
- 7) 後海で実施された打ち上げの夕食会での集合写真（写真7）  
（後海の烤肉季にて）



評審委員会主席の名札



王鴻海副学院長から特頒此証の授与



王鴻海副学院長から自筆の書の授与

### <3日目（6月30日）>

頤和園の見学

## 授賞式スピーチ 2015. 6. 29（月）北京電影学院にて

弁護士兼映画評論家 坂和章平

1) 皆さん、こんばんは。私は日本からやってきた坂和章平です。1949年1月生まれの私は今年66歳です。私は、2007年10月10日にここ北京電影学院で「私の中国映画論」と題する講演を行いました。その時の聴講生の1人が北京電影学院を卒業して早稲田大学に入学し、今年同大学の博士号を取得した劉茜懿（リュウ・チェンイ）さんです。その劉茜懿さんと北京電影学院の教授であるお父様の劉旭光（リュウ・シューグアン）さんたち御一行が昨年7月に日本の大阪にある事務所と自宅を訪問してくれた際、私が北京電影学院“実験映画”学院賞のスポンサーになることが話し合われ、今年それが実現することになりました。本当に人間の縁とは不思議なものだと思うとともに、こんなかたちで私なりの日中友好活動が深められることを嬉しく思っています。

2) 私は子供の頃から大の映画好きでした。それが高じて、2001年に事務所を自社ビルに移転しホームページを開設すると同時に趣味のページをつくりました。そして以降、弁護士兼映画評論家として年間250～300本の映画を観て、そのすべての評論を書き続けています。『SHOW-HEYシネマルーム』と題するその映画評論本は、ここ15年間で35冊になりました。とりわけ中国映画が大好きでその鑑賞数は250本を超えています。

3) そんな私にとって、本日こんな立派な会場で、こんな栄えある北京電影学院“実験映画”学院賞の授賞式に出席しご挨拶できることは本当に光栄です。劉茜懿さんとお父様の劉旭光教授、さらには副学院長の王鴻海（ワン・ホンハイ）教授や霍廷霄（フォー・ティンシャオ）教授、劉曉清（リュウ・シャオチン）教授、敖日力格（アオリゴ）教授たちに心からお礼申し上げます。今回の作品はそれぞれ優秀な作品ばかりでした。本日の授賞式が充実した意義あるものになることを期待しています。本日は本当にありがとうございました。

